

What's IT? (最終回)

連載第1回から振り返ってみますと、時代の流れの速さに驚かされます。インターネットはもはや生活の一部となりつつあると実感する今日この頃です。毎日何百と言うメールマガジンが発行され、何と総理官邸ですら発行するようになりました。(ライオンハートは先日200万部を突破したそうです。政治的宣伝にこんなものが利用される時代です!) 私事ですがこう言った発刊物を一日に受け取る量も20近いものがあります。ちなみに官公庁からの入札案内もメールで来るようになりました。

また、通信インフラも予想を上回るスピードで整備されて来ており、ブロードバンドの王者、光ケーブルによるサービスも一部地域では開始になりました。米子地区でも来年には開始になるようです。100Mbps時代もそう遠くない未来になりました。かつてはちょっと重い画像を含むようなホームページは嫌われたものですが、(訪問者が読み飛ばす限界が3秒以内の表示と言う「3秒ルール」と言うのがありました。) それも遠い記憶の彼方のお話と言う事になりました。今やトップページから動画画像がグリグリ動くようなページが当たり前になりました。

そして、携帯電話によるインターネット利用がパソコンによる利用を上回る勢いで普及しています。どこからでもいつでも手軽に手の中にインターネットがある時代です。これから実用化になると言われる、IPv6が本格的に普及すれば、全ての端末が固有のIPアドレス(インターネット上の電話番号のようなもの)を持てるようになり、文字通り1対1の特定通信が可能になります。インターネットを通じて、世界中の携帯端末が直接繋がる時代です。ちょっと前のSFに出て来るような、全人類が背番号をつけられて管理されるような時代と言う事も出来ます。身分証明の代わりに携帯電話が使われるようなことも或いは起こるかも知れません。

いずれにしても、連載スタート時と比べてみても、いろいろな分野での隔世の感は否めません。もはや中小企業でさえもインターネットを別世界、別分野の出来事として片付けて置くには行かない時代になりました。ただパソコンを導入して経理事務や売上管理をデータ化しただけでは真の意味の「IT化」とは言えません。業績アップのツールとしてとことん活用しなければITの意味が無いと言うような時代です。

さて、当情報メディア委員会が一年がかりで立ち上げた協業サイトですが、中央会のメンバー同士がインターネット上でフラットに議論し、新しい商品、新しいビジネス、新しい市場を創り出そうと言うのが狙いです。このサイトは次年度へ引き継がれて、更に発展される事と思いますが、無料で活用できるこんなツールを利用しない手は無いです。是非とも積極的に活用して、業績アップに繋げて下さい。アドレスは、下記のとおりです。

http://www.hopenet.co.jp/org/tsc/

最後に、せめて独自ドメイン名の取得をお勧めします。これは上記アドレスの下線の部分に相当し、インターネット上の屋号のようなもので、世界で1個しか認められません。しかも、早い者勝ちで登録されてしまいますので、自社名での登録をしようとしても、既に誰かが登録していれば取得できなくなります。ホームページ作成などは後回しでも、とにかく独自ドメイン名だけは取得しておいた方が良いでしょう。インターネットを通じてビジネスチャンスが広がる時代がもうそこまで来ているのですから。

この連載も今回で最終回です。長い間お付き合い頂きありがとうございます。

聞いてごしない Part 14

皆さん、遠い昔、文明が生まれ、近代社会に至るまでに人類が産み出した非アルコール飲料は何種類あるかご存じですか。では、その中で宗教上の迷信や、医学上の偏見でもっとも弾圧を受けた嗜好品飲料は何だと思われますか。

唐突な話ですが、困惑されたかもしれませんが、最近、自分の仕事について考えるようになった時、よく開く一冊の本があります。その本は初版が1922年で改訂版が1935年に出版された重量が2kgを超える代物です。その書物は、ある嗜好品に関するあらゆる分野を網羅しており、全世界でこの業界に係る者にとってバイブル的存在とされています。特に、その歴史についての章などは、読む度に感動と興奮があります。

もともと世界史など歴史の本は好きだったので、手当たり次第に、いろいろと読んでいたのですが、最近読んでいたのは、最近大臣になった竹中平蔵さんが邦訳をされた「強国論」です。久しぶりに大作です。読書の時間は仕事や青年中央会の活動で帰りが遅いこと!?でなかなか限られますが、気合を入れ、眠い目を擦りながら読んでおります。

そのような歴史の本を読むと、現代人の直面する問題がすでに起きていることが指摘されており、歴史を繙くことが問題を解決する糸口になることに気づかれます。混迷を続ける時代だからこそ、過去を振り返り、そこから新しいものを創り出す努力、私の好きな言葉ですが、「温故知新」ということが必要ではないのでしょうか。

だから私も自分の携わっている事業を考えると、冒頭で紹介した書物を開き、遠い昔や異国の生産地に想いをよせ、これからの事業について考えを巡らしているのだと自己満足しております。

ちなみに、答えは3種類で、2つはお茶とココアです。そして、長い歴史の中でもっとも弾圧を受けた嗜好品飲料とは、知的好奇心を刺激する効能があり、仕事の時も、またくつろいで読書をする時にも欠かせないコーヒーでした。

〈とっとこ豆太郎〉

平成13年度通常総会開催案内

とき 平成13年7月17日(火) 18:30~
 ところ ホテルサンルート米子
 内容 (1) 総会 第1号議案 平成12年度事業報告並びに収支決算承認の件
 第2号議案 平成13年度事業計画並びに収支予算書(案)承認の件
 (2) 卒会式
 (3) 懇親会
 ※お車はご遠慮下さい。

7月役員会報告

7月定例役員会が平成13年7月2日(月)、海王に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。
 (1) 12年度事業報告
 (2) 13年度事業計画
 (3) その他
 ※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

いやぁ発表会お疲れ様でした。今、広報打ち上げの博多便の飛行機の中でこの文章を書いています。土井会長の下、委員会内容の啓蒙を基本に据えた今年のハンサムでしたが色々勉強になりました。来年度は稲村委員長にバトンタッチですが、どんな紙面になるか期待しています。おっとどっこい私は留任だ。足を引っ張らぬよう今晚腰を鍛えなきゃ。それではいってきま〜す。

最後に一句

【文字踊る 紙面の陰に 徹夜かな】

【一生懸命 直してみたら 元どおり】

弓ヶ浜 一茶
 (淡水魚に恋した男)

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷社

一年を振り返って



会長
土井一朗



県会長
奥森隆夫

本年は「志と実学」をテーマに掲げ、「行動し勉強する青年中央会」のイメージを強く内外にアピールするという考えで8つの委員会を組織し、運営してきました。「経営者よ自信を取り戻せ、企業人よ誇りを持って!! 目の前の経済がどうこうより、50年後100年後の日本国の発展のために何を成すべきかを考えて行動せよ!!」この事を常に頭に置き行動してきました。その成果は大きく、年度末の活動発表会に結集されました。また中海テレビ・山陰ビデオシステム様のご協力のもと初めてケーブルテレビでの放送ができ、一般市民の方に青年中央会の存在と活動を強くアピールできたものと自負しております。

本年度のテーマとなった志委員会・実学委員会は難解なテーマに果敢に挑戦し実績をあげてくれました。情報メディア委員会は会全体にIT革命のメリット・デメリットを伝え、時代に乗り遅れないよう強くアピールしてくれました。政治・地域ビジョン委員会は委員会を4部会に分けるという大胆な運営をし、伝統のテーマも含め新たな地域への提言をまとめてくれました。また青経連テーマ「市町村合併」への代表として重責を果たしてくれました。21地球委員会においては、一年の活動の集大成としての発表会資料収録のため計3回も大山に登り、その情熱に我々は驚かされました。広報委員会は志と実学の啓蒙という宿題によく応え、全委員会の活動を毎回ハンサムで詳しく掲載してくれました。総務委員会はもっと楽をさせてやりたいと思っていたのですが、実際一番頼りがいがあり気がつけばいつも出勤している状態でした。ニューカマーズ委員会は、新人会員の教育担当として新設した委員会でしたが、会員拡大に積極的に活動してくれました。新人中心で総務とともに出勤場面が多く、苦勞させたのではないかと思います。

この一年間を全会員の協力で終了でき、本当に感謝の気持ちで一杯です。地域の発展は元気な中小企業がたくさん出ることに由ってのみ実現できるというのが、私の基本的な考えです。会員の皆さん、どうか「価値ある人生」を生きて下さい。最後に私の大切にしている文章を紹介します。

「中津留別の書」福沢諭吉(明治3年 故郷中津を出立の時書き残す37歳)

人は万物の霊というが、ただ耳目鼻口手足を備えてしゃべり、眠り、食らうだけでは霊とは言わない。天道に従って徳を修め、知識見聞を広くし、物に接し人と交わり、我が一身の独立を図り、我が一家の生計を立ててこそ、初めて万物の霊というべきである。

昨年の7月県総会にて、会長に承認されてから1年が過ぎようとしています。本当に早いものだと感じております。まずは会員の皆様方の力強い応援により、県会長を無事に1年間務めさせていただくことが出来たことを皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、この1年間の活動を振り返ってみますと、9月の県ソフトボール大会から始まり、10月、岩手県での全国大会、親会主催の韓国江原道異業種交流会、11月経営研修会、2月全県委員長会議、5月には鳥取県中小企業青年中央会による海外研修を兼ねた韓国江原道経済交流会と、また県役員会も計7回開催することが出来ました。

私は本年度の県スローガンに「思い(自己の可能性)」といたしました。中小企業、零細企業を取り巻く経済環境は1年前と比べ、かなり悪くなっている現状です。これから国、県の公共事業の見直しや減少が、公共事業への依存の高い鳥取県においてはかなりのダメージになると思います。また、企業間競争により倒産、廃業または企業間合併やM&Aが急速な勢いで進行する中で、生き残りをかけて頑張らなくてはなりません。その先駆けとして、鳥取県中小企業青年中央会が県商工労働部、及び我々親会でもある鳥取県中小企業団体中央会の支援により、3年間韓国江原道の企業と経済、人的交流事業を始めることとなりました。今年度は調査期間と位置づけ、江原道から一部のサンプルを取り寄せ、試作販売を行うようしています。一企業では何も出来ないが、有志企業数社が集まればそれそうとうのことが出来るようになるという事例だと思います。このことにより、新しいビジネスが生まれてくることを期待しております。

私は県会長就任の挨拶の中で、既設概念を捨て、頭を柔らかくしてひらめきを実行に移すべきだと言っております。ビジネスチャンスをどう捉えるかは皆さん次第です。「思い」があれば、どんな荒波でも乗り越えることが出来ると思います。これから我々は、かつて経験したことのないデフレスパイラルの中で自分自身にかけるときだと感じております。頑張りましょう!!

最後に各地区会員及び各県出向役員の皆様、またOBの皆様方、親会ならびに事務局の皆様、心より感謝しております。力不足の私を1年間支えていただきまして誠にありがとうございました。

6月例会報告

委員会活動発表会挙行される



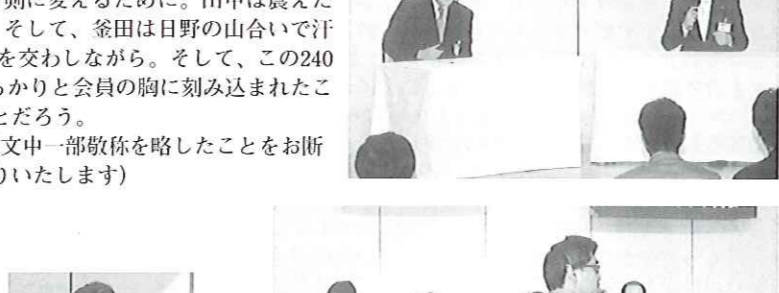
本年度を締めくくる6月例会は去る20日サンルート米子にて開催された。かねてからご承知のとおり今月は1年の各委員会の活動の発表会となった。記録をする広報、例会進行と会場準備をする総務、TV放映用の撮影をするnewカマーズの3委員会を除く5委員会がそれぞれに活動報告をおこなった。

会では夏山総務委員長の進行で始まり冒頭土井会長は「自ら掲げた志と実学を実践すべく、この1年間自分の生きざま、経営理念を隠さず会員に伝えてきた。これは次世代を担う会員の中から、一人でも会が誇れる立派な経営者が生まれんことを切に願った結果である。そして今日の発表が委員会活動の集大成となることを期待する。」と述べられた。

発表はTV放映の配慮からインターバルを取って進行したが、発表担当者はもちろん半年間土井会長の意向のもと企画立案をした中津尾会員、司会進行の中ノ森会員、アシスタントの桶村副委員長、進行指示の中島委員長、そして収録を担当された日次OBを始めとする山陰ビデオシステムのスタッフの皆さん、等々総勢70名に及ぼんとする会員スタッフの手作りの発表会と収録の運営である。皮切りは釜田委員長の志委員会で始まり、始めは緊張していた発表者であったがVTRありインターネット接続あり、資金移動表あり、各委員会工夫を凝らした発表であった。

最後に桶村副委員長の前口上の収録終了が22時丁度。4時間に及ぶ例会は熱い熱気と達成感の中無事終了した。発表終了後土井会長は全委員長に登壇を促し、固い握手とねぎらいの言葉で感謝の意を表した。今まさに土井丸無事1年の航海を終え投錨した瞬間であった。中海TVでの放映日は下記に載っていますので是非ご覧ください。

今思えば土井丸にとっては1年間新たな会社を興し経営するというバーチャル体験をしたのではないと思う。運営ビジョンの開示、役員理事への伝達と意思統一、そして手作りの資料による裸の自分をさらけ出すことによってめざした会員全員との連携感の醸成…地道だが魂の入った行動は半年後に実を結ぶ。ベクトルの一致したうねりは雑音を消し去り傍観者を巻き込んだ。大山へソウルへ近岡や小椋は飛んだ—こなす為ではなく意思と目的をもって。武海は学んだ—自らの弱点を剣に変えるために。田中は震えた—ディスプレイに踊る文字に秘められた会員の思いに。そして、釜田は日野の山合いで汗とちよびりの涙を味わっていた—老人たちと固い握手を交わしながら。そして、この240分に凝縮された土井丸の「志と実学」の航海の軌跡はしっかりと会員の胸に刻み込まれたことだろう。(文中一部敬称を略したことをお断りいたします)



6月委員会活動発表会の放送ご案内

- 中海テレビ放送
 - 14チャンネル パブリックアクセスチャンネル
- 7月23日(月)～7月28日(土)
 - 12時より24時まで続けてリピート

6月度委員会報告

実学委員会

平成13年6月23日(土) 於：岩崎館 出席者/13名
内容/ 今月は、打上げ委員会および中ノ森寿昭会員を送る会を行った。各自が2分間程度の持ち時間でそれぞれの感想を述べるという形式で、実学委員会の一年間を振り返った。それぞれに個性はあれど、その内容は大同小異「反省材料を今後の中央会活動に活かしたい」というものであった。

情報メディア委員会

平成13年6月6日(水) 於：米子食品会館 出席者/10名
内容/ ・委員会報告
・6月例会発表会打ち合わせ及び委員会内でのリハーサル

政治・地域ビジョン委員会

平成13年6月9日(水)～11日(月) 於：韓国(ソウル市) 出席者/11名
内容/ 一年間の研究してきた事を踏まえて、米子～ソウル定期就航便の研修と、インチョン空港韓国(ソウル市)に実態調査研修・景副会長卒会祝い旅実施いたしました。

志委員会

平成13年6月4日(月) 於：日本海情報専門学校 出席者/9名
内容/ 発表会における、各自セリフの確認と時間の調整を行い最終の打ち合わせを行った。最後に打ち上げの日を決定して閉会した。

newカマーズ委員会

平成13年6月5日(火) 於：米子食品会館 出席者/19名
内容/ ・6月例会委員会発表会スケジュール打ち合わせ
・西部青年中央会勉強プログラム検討

21地球委員会

平成13年6月7日(木) 於：米子食品会館 出席者/12名
内容/ 今回の委員会は、直前に迫った6月発表会の打ち合わせにかなりの時間を割く結果となった。

委員長から6月2日に行われた大山への再登山の意図(=昨年の8月12日に行われた登山終了時に指摘されていた問題点を委員会独自の観点から映像資料としてビデオテープに収め、発表会当日放映して他の会員への大山の現状認知を促す手段とするため)、また新たにわかった事実(=とりわけ一石運動に関しては石を山頂に持って上がるというボランティア行為はかなり周知されているが、その石が一体どういう使い方をされ、どれだけ環境保全に効果を発揮しているかという根本の部分には人々の関心がほとんど向いていない。)等を参加会員に説明し、あわせて発表会当日の台本(案)を閲覧してもらった。

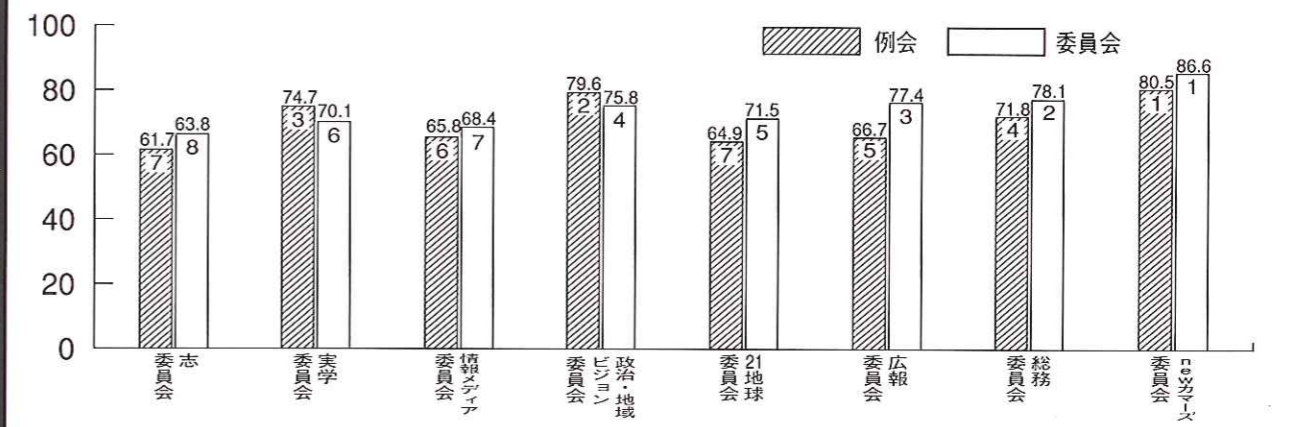
広報委員会

平成13年6月5日(火) 於：米子食品会館 出席者/13名
内容/ ・6月例会役割打ち合わせ
・ハンサム7月号編集

総務委員会

平成13年6月4日(月) 於：ホールサムイんかい 出席者/11名
内容/ ・6月例会役割分担確認
・7月総会・総会次第(案)及びタイムスケジュールの確認、役割分担

平成12年度委員会別出席率



平成12年度皆勤賞、精勤賞対象者

- | | |
|--|--|
| 皆勤賞
(実学) 武海 章、尼子 健、
大田 修一
(情報メディア) 田中 康裕、桶村 清子
(政治・地域ビジョン) 小椋 博之、後藤 秀之、
久古 雅彦
(21地球) 後藤 公平、萬田 寿夫
(広報) 中澤 伸、田中 英治
(総務) 岡本 康朋、高村 和也、
渡辺 一徳
(newカマーズ) 中島 太郎 | 精勤賞
(志) 釜田 公文、中原 浩二、畠山 広幸
(実学) 野川 誠司、水 康徳、若槻 聡、金居 大介
(情報メディア) 金田 雅史、桑本 功一
(政治・地域ビジョン) 石指 智、奥森 隆夫、清川 博敏、楠 明彦、
三嶋 雄司、中本 高夫
(21地球) 近岡 一幸、入澤 善也、浜田 一哉、長谷川 貴久
(広報) 足立 徹、追谷 和之、前田 真、松浦 光善
(総務) 夏山 裕一、加藤 典史、伊藤 玉一、蔵本 晴美、
正木 靖則、山城 克己
(newカマーズ) 潮 邦昭、安部 利夫、小林 慎一、高田 孝志、
松下 文雄 |
|--|--|